



令和6年度 三股町立梶山小学校 学校だより(No10)

かじやま



かんどうがいっぱい じまんがいっぱい やる気じゅう分 毎日が楽しい 梶山小

R6.9.13(金) : 文責 校長

◆～自立と貢献について～◆



昨年も、学校だよりに書きましたが、私は、梶山小学校の子供たちに、将来「自立し貢献できる社会人」になってほしいと思っています。一般的に自立のイメージは、経済面の自立や生活面の自立ではないかと思います。私は併せて、精神面の自立が大事だと考えています。できれば、義務教育が終わる15歳の春までに、自分の人生の方向性を見定めてほしいと思います。そこで、方向性が決まらないときは、18歳の春でもいいと思います。「自分は何が得意か、何をしている時が幸せか、どの方向に向かうことが望ましいか」等を、義務教育等の期間で自問自答してほしいです。義務教育終了後は、自分のよさを生かして、自分がより精神的自立ができる進路選択をしてほしいと思います。

貢献ですが、思いますに、自立と貢献はペアになりやすい言葉同士だと思います。経済面・生活面・精神面で自立している人は、人・組織・社会に貢献できるのではないかと思います。「だれかの役に立っている(貢献できている)」という思いになれたとき、人は幸せを感じるのではないかと思います。

もちろん、これは私の考えであり、「自立とは何か、貢献とは何か」の考えは、人によって違うと思います。保護者の皆様も、この機会に「自立と貢献」について考えていただけるとありがたいと思っています。 *写真は、上が朝のボランティア、下がバケツ稲の写真です。

◆～校長先生、子育ては難しいです！◆



先日、保護者の方と話をしていましたら、子育ての話になりました。その後も、別の方と同じような話になりました。2人に共通することは、子育てが思うようにいかないということです。私も、これといった話はできなかったのですが、「ほめ方・叱り方」は大事だと思っています。叱り方で大事な事は、日頃から叱る事の内容や叱る基準が決まっていることだと思っています。思いつきや気分で叱るのは、あまり効果がないと思います。ほめ方ですが、せっかくほめるのですから、その子供が自己肯定感を高め、さらにがんばろうと思うことが理想だと思います。

子育てに、明確な答えはありません。各家庭で、それぞれの家庭や家族状況で、愛情をもって、「ほめ方・叱り方」も考えながら、子供と接していけばいいのだと思います。

保護者の皆様には、引き続き、楽しみながら子育てをしてほしいと思います。

今号の言葉 ➡ ◆苦しいから逃げるのではない。逃げるから苦しくなるのだ。＜ウィリアム・ジェームズ(アメリカの心理学者)＞

◆「自立・貢献できる社会人をめざして！」知徳体のバランスのとれた児童の育成